

迎春

1995年1月1日

洛友会役員

副会長常任幹事	会長
副会長	副会長
東京支部長	中部支部長
関西支部長	中国支部長
四国支部長	九州支部長
北陸支部長	東北支部長
北海道支部長	常任幹事
常任幹事事務局長	

木池大川上近松大寿近池佐々木藤谷
 矢木原村内家端田藤谷野島藤上嶋木藤谷
 邦磐義 保耕健 憲貞文幸 昭文泰
 雄根則寛昭之三郎彰昭吉夫一夫治之

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
 京都市左京区田中大堰町49
 075-701-3164



明るい新時代に向か 前進しよう

(人づくり、物づくり、夢づくり)

会長 大谷泰之

一九九五年の新春を迎えて、まづ新年のご挨拶を申し上げると共に、会員の皆様方の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

さて昨年を回顧すると、一昨年にも増して歴史的にも記録的にも大変革の年であったことはご承知の通りである。国内外の政治、産業経済、社会、科学技術、教育、自然現象、スポーツその他の各方面で全く予測を許さない力オズ(混沌)の年であった。尤もプロ野球、相撲、広島アジア競技大会、ゴルフ、マラソン、駅伝その他のスポーツ関係の勝敗の行方や感動的ドラマは筆者のようなTV観戦者には大きい楽しみを与えてくれた。アジア競技大会、プロ野球の日本シリーズ、プロゴルフ、相撲の九州場所などの中継放送は見逃さないように時間をやり繰りしたものである。

先づ国内政界では、一年間に四回首相の交替があり、政黨の改変(多党化連立)は固まり、税制改革、行政改革、衆議院の小選挙区制法案の成立等があり、いよいよ本年は新時代の国会議員その他地方選挙の年になりそうである。はたして政治の浄化始め国民の要望が達成されるかどうか、これまたオズ状況に終るかも知れない。

国際的に冷戦終結と戦後処理、米国の中間選挙で共和党の大勝に伴う日米間の諸問題緩和の兆しが期待される一方、中東、アジア、アフリカ等世界的な宗教や民族紛争による無数の犠牲者の発生二伺えたように、来世紀は東南アジアの時代とか、国際的地球的にボーグレース時代とか言われている。

産業経済界では、ハブル崩壊以前の構造的複合的心理的不況の長期化の上に、円高、株価低迷、価格破壊、リストラ、国内産業の海外移転に伴う産業や人材の空洞化等々の暗い面が報ぜられた。しかし九月頃から年末にかけて漸次明るさが見えてきた。上場企業の九

月中間決算をみると、製造業、特に電機、家電、半導体等電気関係がけん引役となつて、四年半振りに底打ち感から増益に転じて来た。これは海外での現地生産等による攻めのリストラの効果によると発表されている。それにつけても筆者が一昨年会報にも触れておいたが、景気循環論、各種の要因による異なる週期の波形複合論等や明るい前進的リストラ効果を思い起している。

自然気象分野をみても、一昨年の冷夏多雨そしてコメ不作から一転して、昨年は記録的历史的猛暑湯水に悩まされた。(もつともコメは逆に豊作に転じた)また10月の平均気温も高く、漸く11月中旬になって足早やに秋冷が訪づれて来たものの、京都でも例年より一ヶ月程も遅く、多彩な混合紅葉が各所で見られるようになつた。

筆者も来世紀を担う若者の理工系離れ問題は現今の大問題であり、文部省の小中高校教育制度、(実験観察等の授業時間の少ない指導要項や理科教育、特に情報処理教育に携る教員の不足)にも問題があると思っている。なお情報化時代の教育方法改革問題については、電気評論誌の昨年10月号にて西之園晴夫教授(昭34卒鳴門教育大)の指導による特集号があり、また同誌9月号の卷頭言で松尾三郎氏(昭13卒北海道情報大学理事長)が情報化時代の教育問題の緊急性について力説されている。

昨年7月号会報にも触れておいたが、昨年6月の関西支部と本部

合同総会の懇親会席上、大嶋幸一副会長(昭19卒)から、理工系学生のメーカーへの就職減少問題についての詳細な配布資料による提言があつた。筆者もその席上、これに関し来世紀を担う若者の理工系離れ問題は時宜を得た提言であり、本問題について会員からの会報への寄稿を望みたい旨話しておいたところ、期せずして池上文夫副会長(昭22卒京大名誉教授)が7月号

卷頭言に、現在の理工系学生(特に私学)の勉強レベルについて、学生は考えようとせず丸暗記する

のが勉強だと心得ていて、考える

ことを忘れた学生が多い、等現状の認識を述べられ、このままでは日本の技術が崩壊するとの提言があつた。

筆者も来世紀を担う若者の理工系離れ問題は現今の大問題であり、文部省の小中高校教育制度、(実験観察等の授業時間の少ない指導要項や理科教育、特に情報処理教育に携る教員の不足)にも問題がある。さらに家庭における両親、特に母親の本問題に対する認識の改善、また理工系女子学生の活用問題(欧米では理工系女子学生は20~30%を占めているのに対し我が国ではそれが10%以下である)等々の問題が考えられる。洛友会

でも優秀な後継者の減少は大問題であることを思うと、会報や諸会合席上での本問題に対する論議も時には必要ではなかろうかと思つてゐる。

ここで最近の京大学生生活の実態調査結果が京大學生新聞(10月20日付)に載つていたので、その

一端を紹介すると、全学部学生の

一日当りの自習時間は平均1.8時間、授講時間は平均4.1時間、出席時間は理工系で7時間以上の出席者が最も多く25%を占めるのに対し、文系では全欠席学生が22%もある。

なお大学院学生では理工系学生は74.5%の者が7時間以上授業や研究に従事しているのに対し、文系では全欠席者が22.2%も占めている。

そのほか新聞雑誌図書を読まない学生が50%を越えている。なお最

近の学生は授業にはよく出ても全般的には余り自主的な勉強をしない傾向がある由である。参考として、家庭の平均年収は約1100万円、

下宿生への仕送りは月平均9万8千円(10年前に比べると何れも約

3割アップ)家庭教師等のアルバイトの経験者は77%、課外活動の種別ではスポーツが60%と多く、海外旅行では男子20%、女子では38%、所持品では所謂家電製品を7割以上、パソコンを27%(男子)

等のデータを記載しておく。

最近「マルチメディア」という言葉が、未來のメディアとしてブームになつており、このパソコン通信技術は将来、産業や社会構造まで変革すると言われている。

これは新聞雑誌等の文字やTV等の画像、映像、音声、音楽、図形等の情報をデジタル技術で統合し、双方にやりとりして、より便

利で豊かな社会を作ろうというバ

迎

春

京都 大学

電 気 関 係 教 室
教 官 一 同

財 団 法 人

関 西 電 气 保 安 協 会
理 事 長 矢 森 智

フジテック株式会社

取締役社長 内山正太郎

シャープ株式会社

松 下 電 器 产 业
会 株 式

ソコン通信技術である。米国では全土を光ファイバーで結ぶ情報スーパーハイエイ構想が打ち出されたし、我国でも郵政省を中心として、この研究施設整備が来年度に予算化される一方、NTTその他で構想が進められ、2千年前までに幹線通信網が、2千10年までに各家庭まで光ファイバー網が設置され、その間、様々なM・M（以下マルチメディアを略称する）製品が生れ、多くの投資が行われM・Mという革命が徐々に、しかも確実に進展すると思われる。

更にM・M時代に対応して、国際的なネットワークであるインターネットもブームになつていて世界中のパソコン利用者が、あらゆる情報を交換出来るようになるものと期待されている。

母教室の長尾教授（昭34卒）の「電子図書館」^(註)によるM・Mの本質は、メディアを各種技術によつて変換し、その組合せを環境に応じて変換することによって最適なコミュニケーションを、人間の主体性を保ちつつ達成しようとするものである。

しかし現在ではM・Mは未だ芽を出したばかりで、その定義すら曖昧でM・Mというキーワードだけが先行していると言つてもよい。

M・Mは従来のメディア革命と違つてパソコンと通信網の果す役割

が大きく、更にその内容とソフトが大切である。使いやすいソフトを充実しないと一般に普及しない。また日本ではM・M効果の期待が大き過ぎ、急速な発展に恐れを抱いています。しかしM・Mの主体は人間で、人間がM・Mをどう使いこなし役立てていかが問題である。

次にM・Mの教育への影響を考えてみると、先づ非常に具象的な形で色々なものを使えることが出来る上、全く個別的に各自の理解度や進度に応じた教育が出来る。長尾教授によるとM・M電子教科書は、学校の実験室で簡単に実験出来ないことや現場に行かないと見られないことも可能になる。学生が積極的に参加しながら、読書し学習していくける楽しい教科書になる。

しかし人間が社会的に共感するとか感情が通じ合うと言う教育が進められるかどうかが問題であり、M・Mを生かすも殺すもその内容次第であると思われる。

何れにしても、一九九五年がコンピューターリー元年、現在がM・M元年、M・M教育元年は5～10年先になるうと思われる。そしてM・M時代は教育界に新しい光を与えるであろう。

ではなく、むしろ全く新しいステージ余生であると見なした方がよ。これまでの生活の単なる延長と考えるのではなく、人生を新しく構成し直すという風に自分に言い聞かせる決意が必要である。

自立の条件として住み慣れた地域での日常生活、経済的な安定、家庭や地域とのつながり等が大切であり、更に日常生活には健康づくり、家事能力、安全な住宅確保等も必要である。特に男性は老後時代の家事をする機会が増えるにもかからず、会社勤め時代にはほとど家事をせず、また慣れていない、高令期には夫婦で余暇を楽しんだり、地域活動に参加したり自由時間を使う工夫が必要である。若いうちからこうした活動を経験し、地域での人間関係を育む時間を持つことが大切である。

女性の就業意識も強くなってきたが、女性にとって育児と仕事の両立は大きな問題になつてく。若い男性の家事時間は非常に短く現状では協力形には程遠い。土も進んで育児に協力する等の意識改革と育児支援システムの充実が大必要であろう。筆者も予てこう書いた内容に近い考えを会報に書いたことがあり、今年の白書には筆者と共に感を与えるものが多く、定年後の積極的人生に關して高令者の養生訓とも言うべき要素とし

て、皆様なりに考える機会を与えてくれていると思う。以上聊か堅苦しい話を述べたが、ここで話題を変えて「京洛だが、ここでも話題を述べたい。

昨年はご承知のよう京都市は平安建都二二〇〇年に当り、元旦から大みそかまで年間を通じて多数のイベントが連続的に催された。恒例の葵祭(5月15日)祇園祭(7月17日)時代祭(10月22日)の三代祭りの外に、「京都まつり」として全国各地の祭りを総合した祭りが11月6日雨天の中で催された。その他数えきれないイベントが建都一二〇〇年に因んで行われたようである。11月8日の記念式典では、両陛下を迎えて、福井謙氏(記念協会会長)から「世界の文化と文明の自由な交流の場となり、「平安京」の名にふさわしく、世界の人々との相互理解と平和に大きく貢献することを理想としてかかげ、建都千三百年に向けて、その実現を深く決意する」との主旨の平安宣言が発信された。

別稿の通り、去る10月30日(日)関西支部では恒例の秋の家族見学会が、関西空港の見学を中心として催された。9月4日開港後といふタイミングが良かつたせいか400名位という、恐らく洛友会始まって以来の最多数の参加者があり、大阪より7台、京都より3台、合

計10台のバスを運らねての大旅行であった。支部長寿栄松憲昭氏(昭26卒)が会長をしておられる日本電池の全会員とその全家族及び木村陸朗副支部長(昭27卒)の京阪電鉄からの若干の応援会員の幹事さん達のお世話で、先づ大阪南港でのアジア太平洋貿易センターの見学と昼食、次いで見物客で溢れいる新空港ビルを見学した。(筆者も折り畳み杖と家内に助けられ漸く参加出来た)当日は昭和9年卒の阪本勇氏はじめお元気な先輩方とも歓談出来て楽しい一日を過した。ここで支部長はじめお世話になった多数の幹事役の皆さんに心から感謝申し上げたい。

なお11月になつて12日には昭和39年卒の皆さんの卒業30周年、13日には昭和24年卒の皆さんの卒業45周年の記念クラス会に筆者はお招きを受けた。前者では現役で最後に心から感謝申し上げたい。

なおこの会合は講習所創立80周年記念でもあり、洛友会本部へ100万円のご寄付を頂くことになった。本部では有意義に使わせて頂くべく検討中であるが、この機会に筆者としても取り敢えず好意に対し深甚の謝意を申し述べます。

次に母校京大は3年後に創立100周年を迎えるので、本部建物の改築その他の記念事業を実施するため約60億円の募金を行ふ由、既に昨年末にその依頼状が皆様に送付されていることと思われる。会員の皆様も何かとご多端の折柄、誠に恐縮に思うが何分のご協力を頂き度、心からお願い申し上げたい。

ここで述べておきたいのは、現在母教室の西川禪一教授(昭30卒)は工学部長として目下懸案となつてある独立大学院大学設置構想の

推進役として、また長尾真教授(昭34卒)は評議員として、更に木村磐根教授(昭30卒)は国際交流委員長として全学運営の中心になつて活躍されていることを誠に心強く思つてゐる。

本年の亥年に因んで、京都御所の西側烏丸通下長者町にある別格官幣中社護王神社の拜殿前に珍らしい石製の猪の雌雄一対が狛犬がわりに相対侍しているスナップ写真(筆者撮影)を載せておく。これは主祭神である和氣清麻呂公が、恒武天皇の時代に長岡から京都への遷都を進言して、平安京が実現した。この清麻呂公が逆箭弓削道鏡の激怒に触れ、大隅國へ配流される途中、再び宇佐八幡へお詫びに行こうとした時、突然300頭の猪が現れ、公の御輿を護つて道案内をしたという由緒がある。以来靈猪として毎年前に置かれている。近年生まれの守護神として仰がれている。

なお初代会長で亥年生まれの故鳥養利三郎先生も、この護王神社へよく参詣しておられたと伺つてゐる。

終りに、会員の皆様、特に昨年の総会で退任された東京支部長の武藤良介氏、関西支部長の藤島啓氏、四国支部長の船越孝夫氏、東北支部長の三上謹五氏および各支部の現役員その他の方々に感謝申

迎 春	一九九五年一月一日		
muRata 株式会社 村田製作所 取締役社長 村田 泰隆	 日本電池 会社 取締役社長 根岸 茂	近畿地方発明センター 財団法人	応用科学研究所 財団法人

の管理職比率が高いなどで項目「働く」が第5位となっている。他に、「費やす」「育てる」「いやす」「交わる」などの項目があるが、8分野全部を総合すると、1位が富山、2位が福井、3位が長野、4位が石川、5位が山梨などと新聞に報道されている。実感とは多少隔たりがあるようにも感じるが、大都市周辺より地方都市への「住みやすさ」の移行の前兆とも受け取れる。

また、総務庁が、平成6年7月

13日に発表した在宅統計調査(平成5年10月現在)によれば、持ち家率79・8%第1位・全国平均59・8%、1住宅当たりの住宅平均31・48)、1人当たりの畠数は、13・93(第1位・全国平均10・43)、1住宅当たりの敷地面積は、399m²(第2位・全国第1位は茨城県で・423m²)など、住宅事情の良いことが報じられている。

富山の人は割に早口で、方言は分かりにくいが、人情は厚くて親切である。日本海側では、秋田県(山形を挟んで)新潟県(富山を挟んで)石川県「加賀美人」(福井を挟んで)京都府の女性に美人が多いと言う。小生の眼や感性は至つて鈍であることは百も承知してい

るが、富山の女性には美人が多く、むしろ良く働く女性に驚くことが多い。

よく晴れた日の立山連峰の景観

は素晴らしい、大学のある小杉町太閤山からも展望できる。太閤山団地は現時点では北陸一の規模といわれ、融雪装置のある道路を始めとして生活環境が整備されています。それで、富山市や高岡市のベッドタウンとしても機能している。家族生活には恵まれた環境といえるが、学生若者にはいわゆる遊び場所が少ないと不満がある。交通機関もJRの最寄りの駅(北陸線小杉駅)まで徒歩で約20分、バスの便はあるが1時間に1本程度である。便利さ・快適さを求める限りがないように思われる。

北陸にお越しの節は、ぜひ県立大学にもお立ち寄りください。

一九九五年を迎えて

東北支部長 大家 寛(昭34卒)

13日に発表した在宅統計調査(平成5年10月現在)によれば、持ち家率79・8%第1位・全国平均59・8%、1住宅当たりの住宅平均31・48)、1人当たりの畠数は、13・93(第1位・全国平均10・43)、1住宅当たりの敷地面積は、399m²(第2位・全国第1位は茨城県で・423m²)など、住宅事情の良いことが報じられている。

富山の人は割に早口で、方言は分かりにくいが、人情は厚くて親切である。日本海側では、秋田県(山形を挟んで)新潟県(富山を挟んで)石川県「加賀美人」(福井を

ざいます)。洛友会東北支部から、21世紀に向つてまた一步せまる一

九五年的年頭に際し、ご挨拶を申し述べさせていただきます。



一九九五年 元旦

21世紀を目前に、今、世界ではグローバルに何かが大きく動いています。それは極めて不確定な要素の中になりながら、しかし変革が行なわれなかつたら人類の滅亡が加速する深刻な原因をほらんでいます。我々のまわりを見る時、東北の地はまだ大いなる自然に囲まれていると言えます。しかし、それでも、20世紀後半の急速な開発の歩みの中にあって、将来まで安心してみていくような状態ではなくなりました。私達の身のまわりに生じている自然破壊のシゲナルを感じる時、さまざま思いと危機感が横ります。例えば、生物についても、はたして50億という個体数を持つた種が、微生物を除くとはたして人間以外この地球に存在しているだろうか、といった疑問です。そして同時に、人類が地球とのかかわりの中で、いよいよ46億年の地球史というレベルで最終段階に入ってきたという感も禁じ得ません。さらに、思われるの50億を超えて60億に迫つてゆく我々人類の繁栄は、同時に、地球という一人の宇宙的存在を病み衰えさせてゆく姿です。たしかに直径1米5・60釐といった等身大の地球儀に面したと想像する時、我々自身は0.1~0.2ミクロンになつて50億を超えて群がる微生物になつてゐると言つていいと思

ひるがえつて我々人間自身のシステムをみると、冷戦構造の破壊後にやつてきた。さまざまな民族紛争、そして窮屈のビールスとうわさされるエイズの登場等、破滅のシグナルがあちこちで示されています。

しかし、こうしている今も未来に希望をもつて生きるすばらしい次の世代が、誕生し成長していく。そして20代の若者は、過去の大人が作つた枠組の罪を、さまざま形でこうもり、時に傷つきながらも明日への本能的な希望をもつてエネルギーをたぎらせています。新しい世紀に向つての人類

ながらも明日への本能的な希望をもつてエネルギーをたぎらせています。新しい世紀に向つての人類は、20世紀への深い反省をまず持つて、そして再出発が必要と思い

ます。特に、地球と人類がどこから来てどこへゆこうとしているか、造物主の志に聞くとき澄ました感性のもと救済を求めて努力してゆくことが大切と思います。

東北支部は、洛友会支部として思は小じんまりしていますが、会員の方々が我が國のみならず国際的に広く持揚を拡張し発展されるようご計画のことと思います。当支部もまた会員の懇親を基本に、その一助となる事を願っています。

末筆になりましたが、洛友会会員一同ご健勝と一九九五年のさらなるご発展を祈念し、拙文でございましたが、年頭の所感にかえさせていただきます。

本年もまた、洛友会、会員の方々が我が國のみならず国際的に広く持揚を拡張し発展されるようご計画のことと思います。当支部もまた会員の懇親を基本に、その一助となる事を願っています。

本年もまた、洛友会、会員の方々が我が國のみならず国際的に広く持揚を拡張し発展されるようご計画のことと思います。当支部もまた会員の懇親を基本に、その一助となる事を願っています。

本年もまた、洛友会、会員の方々が我が國のみならず国際的に広く持揚を拡張し発展されるようご計画のことと思います。当支部もまた会員の懇親を基本に、その一助となる事を願っています。

本年もまた、洛友会、会員の方々が我が國のみならず国際的に広く持揚を拡張し発展されるようご計画のことと思います。当支部もまた会員の懇親を基本に、その一助となる事を願っています。

本年もまた、洛友会、会員の方々が我が國のみならず国際的に広く持揚を拡張し発展されるようご計画のことと思います。当支部もまた会員の懇親を基本に、その一助となる事を願っています。

本年もまた、洛友会、会員の方々が我が國のみならず国際的に広く持揚を拡張し発展されるようご計画のことと思います。当支部もまた会員の懇親を基本に、その一助となる事を願っています。

本年もまた、洛友会、会員の方々が我が國のみならず国際的に広く持揚を拡張し発展されるようご計画のことと思います。当支部もまた会員の懇親を基本に、その一助となる事を願っています。

私の健康法

石川 進(昭26卒)

三年前寄稿した「剣道と武士

道」の中で剣道健康法なるものを披露いたしました。しかし会員の皆様に「剣道をやれ」といっても、道場、用具、相手などの問題で、先ず無理でしょう。今回はもう少し一般的な「私の健康法」を紹介したいと思います。

私は大正15年生まれ、今年平成7年は昔流に言えば古希です。仕事から離れ、少し地元の役をお任せつかっていますが、専ら老春を謡歌しております。そして充分楽しんで、思い残すこと無く、出来ただけ人の世話にならず、バツと死ぬ。つまり私の人生哲学は「先にご紹介した葉隠」につきます。くどいようですが、もう一度葉隠のサワリを再掲します。

葉隠 聞書第一 武士道といふは死ぬ事と見付けたり

戦争中の「特攻精神の原点」と

もいうべきこの言葉、泰平の世に「なにを馬鹿な」と笑うかも知れない。しかし人間は必ず死ぬもの、我々はその「死の様」を考えなければならぬ。

人間一生誠に幾かの事なり。好いたことをして暮らすべきなり。夢の世の中に好かぬことばかりして苦を見て暮らすは愚かなることなり。この事は悪しく聞いては害になる事故若き衆などへ終に語らぬ奥の手なり。私は寝ることが好きなり。今の境界相応にいよいよ禁足して、寝てくらすべしと思うなり。

(三島由起夫の解説)

「葉隠はここで死と生とを盾の両面に持つた生ける哲學としての面を明らかにしている。一方で死ぬか生きるかのときには、すぐ死ぬほうを選ぶべきだと言う決断を勧めながら、一方ではいつも十五年先を考えなくてはならない。十五年過ぎてやつとご用に立つのであって、十五年などは夢の間だ。ということが書かれている。

我々の年代は、終戦を迎えた頃誰もが多かれ少なかれ死というものが直面し、実際に戦死した仲間に籍入り、残った我々も平均寿命まで十年たらず(余命は若干長い

か)です。死ぬまで「仕事一途」も立派だと思いますが葉隠のいう夢の世の中、それも大半が過ぎた今、「好いた事」をしないことはない、と思います。しかし好いた事をするにはまず健康。

そこで私の健康法

人は生まれ成長し、子孫を作り、老い、そして死ぬ。戦前は人生五十年、肺結核が国民病で、やたら若い命を亡くす人も多かつた。今は医療も進歩し世界一の長寿を誇るまでになりました。しかし、病院に行けば病人で満ち溢れ、国民医療費は二十五兆円、GDPの六・四%に達しさらに増え続けています。

盛者必衰は世のならい、この世に生を受け滅せぬものがあるべきや、ではあります、やはり夭寿は全うしたいものです。「武士道といふは死ぬことと見付けたり」と大見得を切つては見たものの、泰平の世、これこそ俺の死に場所

と言ふ機会に恵まれそうにありません。人間の生物学的寿命は百四十才とか言われますが、九十才をすぎて死ぬ場合は老木の朽ちるがごとく、樂に死ねると言います。

我々の年になると、やはり病気の一つや二つは誰でも持つており、

話題といえば先ず健康です。人生はまさに千差万別、他人の経験は必ずしも参考にはなりませんが、

力的には二十才若く、剣道なら二十才代の若者と稽古しても息が止まるということはありません。健

康は金では買えません。それなりの努力と節制が必要です。樂をして、旨いものを食べてでは虫が良すぎます。私は、子供の頃は体が弱く、病気がちで、終戦の年には栄養失調で死線をさまよつたこと

もあります。そのとき悟ったことは、人間、自然の中で暮らすのが一番ということです。といっても、ターザンのような暮らしは不可能ですから、できるだけ自然に近づこうと努力することです。

その1、食事です。

日本人は農耕民族です。鶏肉は不要と、いうより害になります。

私は終戦のとき栄養失調と慢性

大腸カタルで下痢が続き、体重が四十キロまで減りました。医者からは「この薬を飲んでオカユを食べて、なるべく体を動かさず寝ておれ」と指示されました。しかし、

全然、下痢(水様便)は止まらず体は衰弱するばかりでした。そこで、

私は逆をやって、そして田舎の自然に助けられました。親父の田舎で世話をになり、玄米を口の中でオカユになるように噛んで食べました。体を動かさないと食欲が出ません。できるだけ日光に当たりゆ

つくりと畑仕事をしました。医者の薬は止め、お茶がわりにゲンノ

ショウコを飲みました。まだ十九才、私に生命力があつたのでしょ

う。自然の恵みを受けてだんだん

下痢の回数はへり、水様便は固まり、体力も回復、三ヶ月でかなりの重労働(畑仕事)ができるようになりました。

のシステムは、人間とコンピュータの自然なコミュニケーションを

目指して開発された装置で、人間の自由な発話を理解し、さらに対話管理を行なう機能を持つているこ

とを説明された。次に、このよ

うなシステムを実現するために必要

となる、コンピュータによる文字認識、音声認識、音声合成および画像認識等の要素技術について説

明された。今後は、今回紹介されたようなシステムをさらに進めれ

たよるという音声と画像のマル

チメディア、マルチモーダルな利

用により、人間がコンピュータと

より自然に、楽しく、自由に対話

できるシステムを開発していくた

めに取り組んでいきたい。

支部だより

来年は有志でゴルフをしようと

の話が出て、直ぐにまとまつた。

なお役員は左記の通り

支部長 池内義則(21卒)
幹事 芝山龍一(28新卒)

土橋多一郎(34卒)

と全員留任に決定した。

(昭和28年芝山龍一郎記)

北海道支部総会

昨年の11月28日(月)、支部会員

10名が出席して札幌市内の「不二

家」で開催された。

中部支部 家族同伴秋の例会

今回の集りには、初めて内藤規雄氏(40年卒)西野勲氏(40年卒)山下幹雄氏(45修卒)が出席されたこともあるて、懇談の雰囲気が盛り上り時のことの忘れるほどであった。

遷宮なつ伊勢神宮参拝とまつり博・三重'94見学

9月10日(土)中部支部秋の例会、本年は伊勢自動車道の完成により、お伊勢さんが近くなつたので、当

支部としては30年ぶり伊勢志摩方面の旅行となつた。もちろん日當ては昨年の遷宮で新装なつた伊勢神宮参拝と、やはりご遷宮を機に企画された「まつり博・三重」の見学です。

何十年ぶりの酷暑の夏も少し和らいできたものの、やはりまだ暑い。すつかり常連になつた一行18名、名古屋駅前から冷房の利いた

デラックスバスに乗りこみました。

東名阪高速から伊勢自動車道へ、途中事故のため渋滞しましたが車内は賑やかに話が弾みました。

居から対面交通、ちょっとした事故で、もう渋滞、高速道路は絶対片側二車線必要を痛感する。これ

は国道(23号線)のほうが確実と、下へおりました。結局予定より1時間遅れ やむをえず外宮は「遙

拝」として内宮へ直行、宇治橋前で記念撮影をしました。五十鈴川にかかる宇治橋は御遷宮のトップをきつて平成元年に竣工、共用さ

れていますが、五十鈴川に水が無いのにびっくり、といつても上流

と下流にはありますから渴水のた

め、伏流水だけになつたのでしょうか。また、五十鈴川の手洗い場も

水位が下がつて使用できず「普通の手洗い場」でお清めをしました。

以後自由参拝、最年少でも昭和

内は賑やかに話が弾みました。



末筆ながら、懇談会行事のためご多忙中にもかかわらずご講演を快くお引き受けいた木戸出所長ならびにこの行事に参加いたいた諸先輩の皆様に厚くお礼申し上げます。

(昭和56年卒
乾 義尚記)



北海道支部総会



一桁の会員ばかり、お伊勢さんが初めてという人はいないはずだが、樹齢数百年の大木がその歴史を語る広大な御神域の奥、御遷宮なたの白木の御神殿にぬかずく。十三百年も前から続いている御遷宮（今回は61回）を目の前にして会員たゞ感慨を新たにしたことでしょ

発展の歴史として重要文化財に指定されるかもしれません。

伊勢神宮を後に懇親会場“二見
プラザ”へ、二見はここでとれた

有名な夫婦岩があります。男岩、女岩の間に大しめ縄が張つてあります。五月のある時期にはこの間から初

う。伊勢市では今回の御遷宮を機に町並みを一新。“お陰横丁”的電柱を取り払い、古い建物は昔のまま建て直すなどなど町起こし事業を実施しましたが、残念ながら時間の都合でそちらの見学も省略

です。余談ですが、もう木柱など殆どお目にかかりません。実はこの撤去電柱(電話線用)3本が当中部本部の本多顧問(大正13年卒・通信省O.B.)のお邸に再建されています。そのうち、日本文化

日の出が挙めるそうです。伊勢を眺めながらの懇親会、恒例の況報告、会は大いに盛り上がり上がりましたが残念ながら次のスケジュールが待っています。「言ふ足ら人はバスの中で」と出発。

第62回関西支部ゴルフ競技会は、平成6年10月2日(日)武庫ノ台ゴルフコースにて開催された。当日は快晴で、参加者は清原道也(昭17卒)をはじめ大嶋幸一副会長(昭19卒)の参加を得て、総員28

森望(昭63修卒)

第62回 関西洛友会

ゴルフ競技会報告

洛友会東京支部旅行会報告

東京支部では恒例の旅行会を、
10月23日(日)に実施しましたので
概要を報告いたします。

当社は、これ以上ないほどの晴天に恵まれ、大正14年ご卒業の山崎様をはじめ近藤支部長以下、総勢54名のご参加をいただきました

七

2台の大型バスに分乗した一行は抜けるように青い空の下、集合場所の東京駅丸の内南口を後にしま

日(日)午前8時36分スタート10組で開催の予定です。多数のご参加を歓迎しております。

連絡先関西電力(株)電力システム
ム室地中送電課(06-446-6368)
8) 森まで



房総半島ののどかな田園地帯をスムーズにバスは流れ、最初の目的地、大多喜ハーブアイランドに到着しました。ここには世界各 地の代表的なハーブが栽培されており、紫色の清楚な花と香りを楽しんだり、園内のお店で国産のハーブティーやドライハーブ、オーリジナルブレンドスパイスなどのハーブ製品のショッピングを楽しんだ後、思い思いのおみやげを手に、次の目的地へと向かいました。

途中、勝浦の近くではボリュームたっぷりの大名弁当をいただき、茂浦では眼下に広がる勝浦湾の見事な絶景を見つつ、順調にバスは走り、もうひとつの目的地である太海フラワーセンターに到着しま

(昭26卒石川進記)

は予定時間に名古屋につきました。一同、御遷宮なつた伊勢神宮参拝の感激を胸に、また来年の再会を楽しみに散会しました。

した。



洛友会 平成6年10月23日 於 太海フラワーセンター

太海フラワーセンターでは大輪の色鮮やかなバラやハイビスカスをはじめとするトロピカルな熱帯植物にしばし目の保養をした後、帰りの途につきました。

復路では予想通り、渋滞に巻き込まれましたが、途中一般道路に降りて渋滞区間を避けるという運転手さんのファインプレイでほぼ当初予定の時刻に東京駅に戻ることができました。

約12時間の長いバス旅行でしたが、車内ではクイズ大会やビデオから寮歌まで流れ、思い出深い一日となりました。

(写真は太海フラワーセンターでの記念写真)

(平成6年度東京支部会計幹事 昭和51年卒辻本雅彦記)

関西支部家族見学会報告

関西支部、恒例の家族同伴見学会。今年は最近オープンしたばかりの新しい施設の見学を企画いたしました。

4月にオープンしたATC(アジア太平洋トレードセンター)と9月4日に開港した関西国際空港です。マスコミで報道される関西国際空港の話題も手伝つてか、会員およびご家族総勢で385名のご参加をいただきました。過去最高の参加者となり、京都組がバス3台、大阪組がバス7台という異例の規模での実施となりました。

最初にATCを見学していただきましました。ATCは世界最大規模の国際卸売マートの「ITM棟」とアメニティゾーン「オズ棟」か



バスの中では、当方で準備した小冊子「漫画・空港ガイド」と関西電力(株)殿より御提供いただいた「空港島の電力供給設備」のビデオで新空港の概要の予備知識を勉強しました。

昼食後、関西国際空港へ向かうバスの中では、当方で準備した小冊子「漫画・空港ガイド」と関西電力(株)殿より御提供いただいた「空港島の電力供給設備」のビデオで新空港の概要の予備知識を勉強しました。

その後、向かいにある今年6月にオープンしたばかりのハイアット・リージェンシー・ホテルで昼食をとつていただきました。寿栄松支部長、大谷会長の挨拶、木村副支部長の音頭による乾杯に始まり、約1時間の立食パーティ形式の昼食とし、恩師の先生方や同窓の方々と存分に歓談をしていたところができました。

強していただきました。

ホテルから約1時間でバスは空港大橋にさしかかり、バスの窓から離発着する飛行機を見ていました。当日は小春日和で太陽に映える飛行機の銀翼がまぶしく光つて見えました。

関西国際空港は2階が国内線の発着ゲートで、3階が国際線の発着ゲートで、1階が国際線の到着ゲートになっています。また空港にアクセスする鉄道駅は2階にあります。国内線・国際線とも利用者にとって非常に便利に設計されています。開港してまだ2ヶ月足らずの空港は観光客が非常に多く、レストランも土産物店も超満員の状態でした。

今年の見学会は「まつさらのウ



オータフロントの見学」と欲張った企画を立てましたが、何処も人が多く、腰をおろして休息しているだける場所が少なくて、御高齢の方々には強行な見学会になってしまったことを紙面を借りてお詫びいたします。

また世話役の会員が少ないこともあって、家族を総動員してお世話をさせていただいた家族見学会でした。

(写真は昼食時の歓談風景とオズ棟。)

(関西支部会計幹事 尾村隆幸記 昭49卒 日本電池(株)勤務)

落(公卿三條実美、長州久坂玄瑞)

(25等)維新の働き手、礎となつ

た幕末の志士が続く。

江戸時代、徳川城使上洛列

(1850年)

徳川幕府は大礼、年始等の際に必ず城使を上洛させ皇室に対し礼を厚くした。本列はこれを模したもので、城使は騎馬、先頭の槍持、傘持、挾箱持の“ビーサー”掛けと動作は当時の面影を偲ばせるものである。

江戸時代婦人列

(1850年)

皇女和宮(將軍家茂の御白所)は輿入前16歳のお姿。才女の譽れ高い歌人蓮月尼(1850年)京の名妓吉野太夫(後の灰屋紹益の妻、1630年念仏踊りから歌舞伎の起源をなした出雲阿国(1600年)の扮装は京大、徳川家により考証された衣装である。

安土、桃山時代の豊公参朝列

(1590年)

これは檜榔牛車(1590年)蒲葵の葉で葺き、簾等の色文装具は最高級の様式で、牽馬には豊臣時代の遺宝の盧の高時絵の鞍を模し、前後に大臣らを従えて進む。

織田公上洛列(1570年)

京都が応仁の大乱で荒廃し皇室も衰微した後で信長が上洛、皇居を修理、都民を落着させ復興に力を入れた信長上洛を模したものの、この時鉄砲が導入されている。

中世婦人列(1590年)

淀君と洛北大原女、薪、炭を頭にせ京の町へ売りに出る姿を表わす。

吉野時代は楠公上洛列

(1850年)

1333年後醍醐天皇が隠岐より還幸されるのを一族郎党を率い、お出迎えする楠公一代の盛事のさまで模したもので、正成公は紫木濃緑の大鎧、鍬型金具のついた兜、兵庫鎖太刀に豹の鞘の出立ち。

百年振りに新調され重さ25キロ、

この重さで身軽に戦う當時の大将

は大したものと感嘆しきり、因みに価格は千500万円。楠公の後正季

公、侍大将が続く。この吉野時代の婦人列には義経の愛妾静御前

(1180年)が白拍子姿で水干、

單小袖に白の切替を着け立烏帽子

を被つて鼓を持ち、童女が絹傘を

差しかけて従う。静が鶴岡八幡宮

で頼朝の意を気にせず義経を恋い

慕う歌舞を行つたことは余りにも有名である。

鎌倉時代は城南流鏑馬列

(1220年)

後鳥羽上皇が朝威回復のため近畿余国の武士千700余人を召して、模したもので狩装束の射手の武士を中心に5組で組織され、この狩装束の騎馬武土は綾蘭笠に直垂手に弾をはめた左手に射箭筒手、腰には鹿皮の行縢、物射筒を履き籠を腰に

を負い、太刀、腰刀の颯爽とした姿である。

平安時代は華かな婦人列で彩ら

(1180年)巴は武装姿で「源平

盛衰記」によつたもので、天冠に

鎧を着け馬上豊かに太刀を佩いた

上に、長刀を捧げた凜々しい姿で

従者は折鳥帽子に小刀、弓を携え

ている。源義朝の夫人常盤御前

(1160)は牛若、乙若、今若を

伴い六波羅に名乗り出た時の姿。

源氏物語の紫式部(980年)女官

姿、枕草紙の清少納言は正装で台

車に、六歌仙、三十六歌仙の一人

で才色兼備の女流歌人小野小町

(850年)は平安初期の神像を模

した特殊な姿で静々と歩む。

最後は延暦時代(800年)に遡る。先ず延暦武官行進列。全行列

は、(850年)は平安初期の神像を模

の大将役の征夷大將軍坂上田村麻呂がきらびやかな金小札の甲冑に、

金作りの直刀を佩びて白葛の胡縫を

背負い、金銅の弭金物の襷の丸木

弓を従者に持たせ、本地に漆画を

施した鞍橋に金銅の杏葉銜に赤車の

の鞚の馬に跨り従者を従えて進む。

次に文官参列。公卿諸臣が朝

廷に参上する様を模したもので、

その服装は朝服と言ひ、巾子が広

く羅の柔かな冠を被り、直刀式の

儀刀に金銀の腰帶を着け、三點

(馬の飾り、位により色が異なる)を

つけた馬に乗り錦蓋をおおわせて

進む。全行列が平安神宮に還り着

いた三位の宮が全員を代表して

御鳳輦の前で祝詞を奏上する。

神幸列。結びは神幸列で御賢木

を先頭に御鳳輦(一基)、前が孝明

天皇、後は恒武天皇即ち御祭神

が京都をご巡幸になつて市民の安

らかなさまを親しくご覧になる行

事である。これまでの各行列はこ

の御神幸のお供をして行進するも

ので全行列のうち最も意義深い行

列である。この神幸列の最後尾に

は恒武天皇平安京ご入京の際警固

に当つたという弓箭組列が、引立

鳥帽子に直垂を着け太刀を佩き弓

箭を携えて巡行する。正午に京都

御所建札門より出発した時代行列

は午後3時平安神宮應天門に還幸、

ここに時代祭は滞りなく終る。

今年は百年祭を目標に5年計画

で装具が考证整備され、約千点が一挙に補修新調され祭に華かな彩りを添えた。

かくして時代祭は私達の心に、過去去つた平安京の歴史を偲ばせると共に、これはまた日本歴史の縮図とも言えましょう。

感謝。

(平成6年10月記)



